

大阪教育大学広報誌 TENYU 2013.Autumn



P2~3.センター紹介 その4/手をつないで vol.5/

P4~5.ラボ訪問/P6~7.STUDENTS NOW!/

P8~9.卒業生CATCH!/P10.公式キャラクターコーナー/

P11.附属学校園ウォッチ/本読みのススメ 第6話/

P12.TOPICS



人にまっすぐ。大阪教育大学

センター



「安全 |にかかわる様々な活動を推進

その⊿

学校危機メンタルサポートセンター

附属池田小事件を きっかけに設立

平成13年6月8日、本学の教育学部附属池 田小学校において23名の児童および教員が 殺傷される事件が発生し、精神的に大きなダ メージを受けた児童・保護者・教員に対し長期 にわたるケアが必要とされました。

本センターは、このような学校危機の発生に 対して、専門的に対応できる組織的・包括的な 活動を支援する研究・教育機関として設置さ れました。全国共同利用施設として、学校危機 に関する研究を実施し、かつ国立大学の教員 その他でこの分野の研究に従事する人の利用 に役立つことを目的としています。

活動方針は、

- ●附属池田小学校の被害者など学校危機に よる被害者の精神的支援
- ❷学校危機と安全に関する予防および支援の 実践と研究
- ❸心的外傷を受けた児童・生徒の心理教育お よび心のケアの実践と研究

を掲げています。



部門構成と 連携機関について

本センターには、「トラウマ回復」「心の教 育」「学校危機管理」の3部門があり、それぞれ 専門的な役割を果たしています。

「トラウマ回復」は、

- ●心的外傷を受けた児童・生徒などの臨床的 な治療技法や心のケアに関する研究
- ●PTSD (心的外傷後ストレス障害) の心理学 的·生物学的·社会学的研究

を担っています。

「心の教育」は、

●トラウマなどの問題を抱える児童・生徒に対 する心の教育と学校の組織的な取り組みの あり方に関する研究

を行っています。

「学校危機管理」は

- ●学校危機に対する予防の研究
- ●学校危機支援のあり方に関する研究 を進めています。

なお、本センターは、国内外の大学・研究機 関、保健・医療・福祉施設、教育委員会・教育セ ンター、大学附属学校・公立学校などと緊密な 連携を取りながら活動を進めています。

外部機関との共同研究プロジェクトは8つあ ります。

- ●学校危機介入に関する研究
- 2 心理教育プロジェクト
- ❸学校におけるグリーフケアに関する研究
- ◆認知行動療法に関する研究
- **6**投影法の認知処理に関する基礎研究
- International Safe School 認証支援プロジェクト
- 7安全教育研究会
- 砂防災教育プロジェクト

多彩な教育・ 研究活動を展開

教育活動は、5つの事業を行っています。1つは 教職員研修「学校危機管理の基礎と実践」です。 毎年7月(初級)と8月(中級)に実施しています。

2つ目は「学校安全主任講習会」です。毎年8 月頃に開催し、全国の幼稚園・小学校・中学校・ 高等学校・特別支援学校などから学校安全に 携わる教職員が受講しています。

この他、プロジェクトフォーラム、センター フォーラム(毎年3月開催)、センターシンポジ ウムを定期的に開催しています。

[International Safe School] (インターナショナル セーフ スクール ISS)

本センターが国際的にアピールする活動と して、[International Safe School] (インター ナショナル セーフ スクール) があります。

世界各地で推進するInternational Safe School (ISS) 認証活動を日本で普及・発展さ せることを目的に、スウェーデン干国カロリン スカ研究所に設置されている「WHO地域安全 推進協働センター」の承認を得て、2012年4月 14日、「日本ISS認証センター」を設立しました。

ISSの認証取得を希望する学校に対してISS の認証にかかわる技術的指導を行うとともに、 ISSの理念を生かした学校安全の取り組みが 日本のすべての学校で推進され、継続されて いくための支援を進めています。

2013年3月現在では、全世界でISSとして 100校以上が認証を受け、日本では2010年3 月、附属池田小学校が日本で初めてISSとして 認証されています。

「安全・防災教育を全国各地へ」 藤田大輔センター長語る

センターの今後の方向について藤田セン ター長は「まず第1の柱は、附属池田小事件で 被害を受けられた人々への精神的支援の継続 です。第2は、学校管理下での事故災害の知見 を集め、そこから得られた研究内容・成果を学 校現場へフィードバックすることです。毎年実 施の研修会を通じて、危機管理意識をもった 教員を育成する取り組みの充実化です」と強 調します。

本学では、今年度から「HATOプロジェクト」 (※)の一環で、先導的大学として安全・防災教 育プログラムの開発に取り組んでおり、藤田セ ンター長はそのリーダーを務めています。ここ では全国の学校現場で安全教育を広げるた め、科学技術振興機構(略称JST/RISTEX)の 支援を受けて開発した授業で使えるEラーニ ング教材を充実させ、ネットを通じて全国の学 校園で活用できる安全教育システムづくりに 取り組んでいます。

また、附属池田小学校長として成し遂げたISS 認証を、センター長として今度は全国に広げる 使命をもっています。「安全の取り組みはとぎれ ることがあってはなりません。いずれの事業も、 持続可能なシステムとしてしっかりと作ってい きたい。東日本大震災以降、地震・津波に対する 防災教育、さらには防犯教育に関心が高まり、







都道府県レベルで取り組むところが年々増えて おり、ますます注目されています」

安全・防災教育については「国・文部科学省 も注目しており、次の学習指導要領改訂には 高いウェートで盛り込まれる見込みです」。最 前線で活動する研究者として、各地域で実施 される研修会の指導やプログラム策定に当 たっての助言、文部科学省の研究協力者会議 の委員などに選ばれるなど、センターの"顔"と して東奔西走の日々です。

※「HATOプロジェクト」=北海道(H)・愛知(A)・東京 (T)・大阪(O)の国立4教員養成系単科大学で構成す る教員養成開発連携機構の通称

【ヤンタースタッフ】

(EDD ADDD)	
センター長	藤田 大輔(教授)
専任教員	瀧野 揚三(教授) 岩切 昌宏(准教授) 豊沢 純子(准教授)
兼任教員	大道 乃里江(養護教育講座准教授) 石橋 正浩(人間科学講座准教授)
客員教員	衛藤 隆 (日本子ども家庭総合研究所所長、東京大学名誉教授) 富永 良喜 (兵庫教育大学大学院学校教育研究科 教授) 浦中 千佳央(京都産業大学法学部准教授) 亀岡 智美(兵庫県こころのケアセンター副センター長) 大槻 亮志(大阪府教育委員会総括主査・主任指導主事) 森池 良朝(元大阪府警警視正 池田警察署署長) モー・ジェフタ・クリストファー

▶〒563-0026大阪府池田市緑丘1-2-10 TEL (072) 752-9905 fax (072) 752-9904 e-mail:nmsc@bur.osaka-kyouiku.ac.jp

手をつないで



男女共同参画推進コラム

キャッチコピー、ご存じでしょうか?

男女共同参画推進会議企画専門部会のメンバーによるコラムも5 回目となりました。今回は本学の男女共同参画のキャッチコピーをご 紹介させていただきます。みなさま、ご存じでしょうか。

昨年、本学で男女共同参画を推進するため親しみやすいキャッチ コピーを募集いたしました。34の応募作品の中から本学学生2名によ る作品が見事選ばれました。

受賞した作品は、最優秀賞(1作品) 『△(参画)するのに□(資格) はいらない。』、優秀賞(1作品)『あたりまえってなに?しかたがないでい いの?」です。

表彰式は平成25年1月23日(水)に柏原キャンパスで行われ、長尾

学長から賞状の授与と記念品の贈呈が行われました。賞状を手渡し た長尾学長は、最優秀作品について受賞者に「洒落の効いたよい作 品ですね」と声をかけました。

最優秀作品を受賞した学生は「国語研究のことば遊びの授業で、 ことばを使って表現する学習をしています。"参画(さんかく)"をテーマ に何か創り上げたいと思い、何回か声に出して読んでみたら、図形の 三角と四角に結びつきました」と喜びを語りました。また、優秀賞を受 賞した学生は「人権問題に関心があり、男女の"あたりまえ"に疑問を もっていました。そのコンセプトを2段構成のキャッチコピーにしてみま した」と話しています。

受賞した2人の発想豊かなキャッチコピーにはとても好感を覚えま す。2人の今後の活躍を期待いたしますと共に、本学の男女共同参画 に親しみを持っていただければと願っております。

> 男女共同参画推進会議 企画専門部会委員 千原 弘美(人事課職員係長)

TENYU 27 3 2 TENYU 27



ラ ボ 訪 問

File.026

准教授

新崎国広

教養学科人間科学講座





"なぎさ化"をキーワードに共育コミュニティーづくり

「福祉教育、ボランティア学習において、"な ぎさ化"の視点を取り入れる研究課題に力を 入れています

"なぎさ"とは何か。もちろん"波打ちぎわ" をさすのではなく、「福祉施設と地域」「学校と地域」といった"結節領域"を"なぎさ"と比喩的に表現しています。

地域社会に住む高齢者、障がい者は、社会 的に孤立しがちです。また、家庭でもネグレク トや児童虐待の背景に母親の社会的孤立が あります。孤立化の問題は、福祉と子育て、教 育の大きな課題です。いじめ、不登校などは、 学校自身が地域から孤立していることも大き な要因だといわれています。

「学校と地域が課題を共有して、一緒に歩んでいくというのがわたしのスタンスです。"なぎさ"をキーワードに学校と家庭、地域社会を巻き込んだ共育・福祉コミュニティーづくりが実践研究の目標です!



大学で社会福祉を専攻。ソーシャルワーカー(社会福祉士)として、大阪府内の肢体不自由児施設に着任し、21年間、障がいをもつ子どもたちや保護者と関わりました。

「障がい児を受け入れる地域の福祉、教育環境、サービス提供の現場をつぶさに見るなかで、入所児童の生活主体者としての社会参加の機会を保障することの難しさを痛感しました。そこで、施設が地域に開かれ、施設利用者と地域住民が交流できるような方法として、施設ボランティアコーディネーションを模索するようになりました」

例えば、大阪府岬町での「地域福祉共育 (ともいく)」のフィールドワークは出発点となったと強調します。

「不登校、特別支援の子どもたちは学校では孤立する可能性が高いですが、同じように孤立しがちな高齢者・障がい者、そして幼稚園・保育園児と交わることで、自己有用感に気づき居場所ができるようになります。小・中学生たちはサロンでの接遇を通して、高齢者等から『ありがとう』と感謝されることで自分の存在意義、自己肯定感を得ることができます」

「親や先生とはタテの関係で、同級生とは ヨコの関係ですが、高齢者や障がい者、幼児 とは温かくやさしいナナメの関係なのでス ムーズに入ることができます。地域に戻れば、



街で近所のおじいちゃんおばあちゃんに声をかけてもらい、挨拶を交わす顔見知りです。その輪に小学校の教員や、生徒学生ボランティアが加わることで共育コミュニティーができあがります。地域の教育力が低下した各地域に日頃から"挨拶"や"おせっかい"を復活させる取り組みでもあります|

2002年、大学院教育研究科修士課程を 修了後、本学の教員となりました。

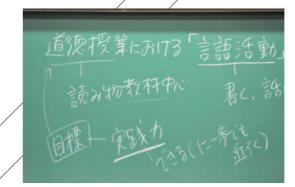
福祉の現場で実践を積み、研究者となりました。常に現場からの視点で追究するのがスタイルです。授業は、発達人間学、地域福祉、福祉教育、児童福祉、社会福祉など幅広く担当、東日本大震災の学習支援ボランティアを指導した「いい汗かこうぜ! ボランティア」も担当しています。「わたしの授業を受け、ソーシャルワーカーになりたいという学生が少し出てきていることが嬉しいですね」



ラ ボ 訪 問

File.027

教員養成課程学校教育講座





学校現場に道徳教育の担い手を

道徳教育学を専門に研究し、主に小学校教員をめざす学生を指導しています。

「わたしが指導する道徳教育学コースの学生には、新採用で赴任してもすぐに道徳教育の指導案が書け、研究授業ができる力量をもつようにと言っています。そして、読み物教材を踏まえた子どもたちの話し合いでは、子どもの意見を引き出す環境づくりとともに、授業者がポイント部分できちんと入って、着眼点の指示ができなくてはなりません。行き当たりばったりで、子どもがたまたまいい発言をしただけでは成果とはいえません。指導案がすぐに書ける、そういう力のある教師となる素地を育てるには、4年間で段階を踏まえたトレーニングが必要です」

「例えば」と金光教授は具体的に説明します。

1~2回生までは、一人ひとりの学生がもっている"考え"を揺さぶり、信念のレベルから人に説明できるものにしていくトレーニングを行います。3回生になると、教材を精読し、実際の授業を想定して発問の文言にまで練り上げる作業を求めます。そのために、研究授業を試行的に取り入れることもあります。4回生では自身の研究テーマに沿って卒業論文に取り組みますが、そこでは道徳自体を研究対象とする者と具体的な道徳授業を研究対象とする者がおり、後者では附属校等での実験授業を実施しています。

道徳教育が特設されてから50数年。2001

年には小・中学校向けに、学習指導要領・道徳編の内容を子どもにわかりやすく示し、かつ彼ら自身の記入欄を設けた『心のノート』が配布されました。各校には『道徳教育推進教師』というポストも置かれました。しかし現在、都道府県で、またその中でも市町村により実施状況にはかなりの違いがみられます。

金光教授は、大阪府内の研究指定校などに研究指導で頻繁に出向くととともに、10数年間、教え子たちを「道徳教育の担い手」として現場に送り続けています。そこから見えてくるのが、大阪の学校現場の悩み深き現状です。

道徳の授業では、心動かされるエピソードの 読み物教材をもとに、子ども同士の真剣な話し 合いを通じて、「思いやり」「友情」「正義」など 考えさせる指導法が一般的です。しかし、大阪 ではこうした教材すらなく、「心のノート」もほと んど活用されていないケースもあることが、学 生らの報告で明らかになっているといいます。

毎年9月~10月、大阪府内の学校に教育実習に赴いた教え子が、「道徳教育の研究授業をしたいのだが、学校には教材がない」と金光教授に相談にくるケースが増えるといいます。

金光教授は「大阪の学校では同和教育、人 権教育が進んでいるがゆえに、忙しさもあり、道 徳の授業が後回しになり、その結果、教材はもち ろん指導実践の蓄積がないという形骸化もみら



れます。人権教育は大切ですが、道徳教育で教 えなければならない価値や目標もあります」

金光教授は「学校の荒れがひどくて、生活指導だけでは限界を感じている教師たちが、道徳教育に取り組んでみたところ、話し合いで生徒の様子が前向きに変化したという報告が増えています。他の教科の授業では一度も手を挙げて発言したことのなかったやんちゃな生徒が、自分の意見をしっかり述べたという事例を何度も目の当たりにしました。多くの教師が道徳教育の面白さを感じてくれることを願っています」

そのうえで、「人権教育で教育実践の重要性を認識している教師が一旦、道徳教育に価値を見いだすと、一気に道徳教育が広がる可能性があります」と期待します。

国の政治状況の変化で、「道徳の教科化」 の検討もされようとしています。「教員養成大学 の教員として、学校現場で道徳教育の担い手 となるような学生を今後も育てていきたい」

4 TENYU 27 5

教養学科自然研究専攻 4回生 甘耿(ガンゲン)さん

中国 内モンゴル自治区出身の留学生

遺伝子研究で母国の環境問題に貢献したい





一 障がい学生修学支援ルームでリーダーシップを発揮されていると聞いています。支援協力学生のスキルアップを図る研修活動で手話を担当されているそうですね。手話との出会いは?

浜松 中学2年のとき、何気なくテレビを見ていたら、居酒屋の店主が手話でお客さんと楽しく会話しながら注文を受けているシーンがありました。ふーん、手話って普通にあるんだ。面白そう、と感じたことを覚えています。

― 本格的に学ぼうと思ったのは?

浜松 高校に入って、手話サークルがないかと 市役所に問い合わせたところ、市民ボランティ アの手話サークルがあり、門を叩きました。学 習会では手話が飛び交っていまして、初めは何 にも分からず愛想笑いを続けていました。そこ で、(手話を)学びたいと強く思いました。学ぶう ちに通訳者への関心が高まり、手話通訳の講 座にも通い始めました。



-- 大阪教育大学を選んだのも、手話と関係 があるのですか。

浜松 学生の手話サークルがある数少ない大学の1つでした。しかもレベルが高い。オープンキャ

ンパスで手話通訳を見学し、魅力を感じました。

--- 2年前に障がい学生修学支援ルームができ たのも、タイミング的にはよかったですね。

浜松 学生だけのサークルだけでなく、大学 の事業として教職員のみなさんと仕事ができ るということで、大変充実感があります。

課題に感じていることは。

浜松 情報保障ではパソコンテイクが主流になっていますが、手話やノートテイクも捨てたものではないということです。

なぜかと言いますと、パソコンの表現には 抑揚がありません。手話はジェスチャー、表情 の変化など通訳者の技能や個性があらわれ、 人間的な温かさとして相手に伝わるからだと 思います。

- 手話と手話通訳者とは、求められる技量 は全然違うとのことですね。

浜松 コミュニケーションですから、相手に対する配慮が求められます。手話で伝えようとしても、相手が顔をしかめていたら、あっ、通じていないんだ、違う表現をしてみようと、臨機応変に修正することが必要です。また、手話通訳者の服装も、手話が見づらい服などは避けるようにしています。

--- 将来の夢は。

浜松 本学に入学される通訳の利用学生さんのニーズに合わせて通訳者の人員やスキルを増やしていけるよう、通訳者を育成していきたいと思っています。また、自分自身が教



える立場になっているので、自分と同じレベルの(手話)通訳者がもっと勉強できるように、学外の通訳をされる方々、受けている方々からいろいろ学べるように、すべての人が学び教えることのできるような体制をとっていきたいと思います。

-- 手話とは何か、聴覚障がい者の歴史を知らない学生も多いと思います。そういう一般の学生に何かメッセージを。

浜松 ノーマライゼーションの動きをわたしたちは無視できないと思うのです。例えば、身近な人が耳が聞こえなくなり、目が見えなくなったら、どうやって助けたらいいのか、立ち止まって考えてみることは必要ではないかと思います。手話の面白さをみんなに伝えたいです。

学生スタッフが講師を務める各研修を開催しています。 ・はじめての手話(初級コース)・手話通訳研修会・パソコンテイク研修会・ノートテイク研修会 お問い合わせはC6棟2階・障がい学生修学支援ルームまで。 TEL:072-978-3479

E-mail:sienroom@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

一日本の大学に留学しようと考えた理由は? 甘耿 高校1年の時に日本映画「いま、会いにゆきます」(竹内結子主演)を見ました。

なんて、自然豊かな国なんだろうと、日本の 風景の美しさや人の心に感動しました。親戚で 日本に留学した人がいたので、経験談を聞き、 日本への憧れが募りました。6月に高校を卒業 し、半年間、日本語学校で日本語を勉強しまし た。親の許しを得て、2008年春に憧れの地を 踏みました。



― 大阪教育大学に決めた理由は?

甘耿 理系の生物を研究したいと思っていたので、自然研究に関心が向きました。日本語学校の先生からの助言や、国際センターが発行している留学生向け大学案内が魅力いっぱいで、留学生に対するサポート体制が充実していることが分かりました。それで、大阪教育大学の教養学科に留学を決めました。

一 鈴木剛准教授、向井康比己教授から指導を受けているということですが、研究内容は? 甘耿 植物のタバコを材料に、ゲノムの特異的反復配列の解析を行っています。染色体やDNAに関する遺伝学的な研究です。

鈴木先生と向井先生には、実験の意義や操作の原理を分かりやすく指導していただいています。

一日本の文化や生活、食べ物はどのように感じていますか。

甘耿 交通体系が緻密に発達してとても便利です。大好きな神戸や京都にも電車で短時間で行くことができます。日本文化で特に好きなのが京都です。たそがれ時に、着物を着た女性が路地を歩いている姿は本当に美しいです。また、人とのつきあい方が細やかです。例えば相手に対する気の配り方、おもてなしの心が素敵です。

また、日本の食べ物も、初めてのものばかり でびっくりしましたが、慣れてくるとお刺身や 納豆も大好きになりました。

― 勉学以外に好きなことは。

甘耿 旅行です。沖縄にも行きましたが、琉球の文化、特にエイサーには感動しました。

一 内モンゴルの素晴らしさを紹介していた だけますか。

甘耿 美しい草原です。日本の方は毎日忙しいので、広い草原の真ん中に身を置くとゆったりとした気分になり、癒されること間違いな

しです。中でも、夕日の美しさは感動です。 --- 将来の夢は。

甘耿 大学院に進んで、動物の研究をしたいと考えています。修了後は、遺伝子を扱う研究機関の研究員になりたいです。

内モンゴルは草原が美しいので有名ですが、実は、緑が減って、砂漠化が進んでいます。 緑を増やし生態系を戻すにはどうしたらいいのか、さらに研究を進めたい思っています。そのために日本の環境保護から学びたいと思っています。



6 TENYU 27 TENYU 27 7



「赤ん坊って面白いですね。大人だったらお腹がすいたからといって泣きませんが、笑ったり驚いたり、あらゆる面で表現が豊かです。パーツは大人と同じですが、バランスは年齢によって独特で、モチーフとして面白いと思います」

3歳児と1歳児のお母さんです。は虫類や 魚、昆虫などの動物を主な題材にしてきました が、出産・育児を経験したことでモチーフが変 化してきています。



美術との出会いは、本学附属平野小学校時代。図工の専科教員から学んだことが「新鮮だった」と振り返ります。高校時代に、抽象的なテーマを作品に取り上げた中堂元文教諭(後に大阪教育大学教授)の許で、先進的な美術教育にふれました。「学生が何を考えて制作に取り組もうとしているのか、出来上がりの美しさだけでなく、ものを考え、創りだす過程そのものを芸術としてとらえるスタイルに感化を

受けました」

教養学科芸術専攻で、基礎教育を学ぶうちに「立体」に傾き、ペーパーを素材に選びました。題材を動物に絞り、動物園や水族館に通い、旺盛な制作活動に取り組みました。3回生の春には初めての個展を開きました。大学院修了後、本格的に作家の道を歩みます。専門は、立体イラストレーション、ペーパークラフトデザイン、クラフトレクチャーです。

結婚後は、西宮市内のアトリエ兼自宅で活動をしています。国内での活動が主ですが、作家仲間とニューヨークでグループ展に参加したときの経験が印象的だったといいます。「アート関係者でない一般の方も気軽にギャラリーに入ってきて、熱心に見てくれました。作品を気に入ったからと値切られて閉口したこともあります。日本よりも『アート』の敷居が低く、一般の方が楽しんでいます」

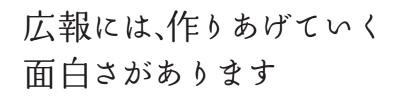
趣味は旅行。インスピレーションを得るのも旅先だったといいます。「今は、子育て中なので自分の時間がとれず、生活のスタイルが180度変わりました。子どもと接したり、家事の最中にアイディアがふと生まれることがあります。制作の時間も朝早くか深夜など、少ない時間をどのように有効に使うか苦心しています」

夢は海外での作家活動。特にアジアに関心 があるといいます。「韓国、中国はエネルギー があります。わたしの作品を見てどのようなリアクションがあるのか見てみたい」と微笑みます。

最近は教えることも仕事にしています。高校の非常勤教員のほか、幼稚園でのワークショップ、市民講座の講師など。「美大をめざしている高校生でも、幼児から立体作品を作った経験がない人がほとんどです。幼児対象のワークショップでは、ペーパークラフトなどをとおして立体作品の制作を取り入れるよう、保護者や先生方に勧めています。幼児期は、自分の手を動かしてものを作ることが大切です」ときっぱり。

後輩の大教生には、「大学時代という二度とない貴重な時間を無駄にせず、精一杯自分のテーマに向かってほしい。学生という特権を生かしながら、どんどん外へ出ていって刺激を受けて」とメッセージを送ります。





高橋 綾子さん

教養学科 スポーツ・健康科学・生活環境専攻 健康科学コース2009年3月卒

株式会社かんでんエンジニアリング 営業本部統括部 広報担当

「コミュニケーションがあまり得意でなかったのですが、広報担当になって鍛えられ、変わったと思います。取材の前夜は緊張して眠れないことも多かったのですが、なんとかなると考えられるようになりました」

「社会生活に欠かせないインフラを担う企業に入りたい」とかんでんエンジニアリングに入社。1年間の支店庶務担当を経て広報担当に抜擢されました。



広報担当になって4年目。社内報(隔月発行)、社内ニュース・リリースなどの取材で、工事の現場に出かけ、インタビューや写真撮影、

記事作成などに忙しい日々を送っています。

「広報はやればやるほど仕事量が増えていきます。手を抜くこともできますが、わたしはできないのです」

「広報業務には難しさもあります。例えば、わたしの説明不足でこうしたいという思いが取材先の相手になかなか伝わらないこともあります。ただ、やったことが成果物となって現れることは、達成感につながります」

大教の4年間は、教養学科健康科学コースに在籍。人との出会いに恵まれたといいます。1つは、一生の友達ができたこと。2つ目は何でも相談できる恩師ができたことだといいます。友人や恩師とは、卒業後も頻繁に交流。社会人になり、企業での経験を経て養護教諭の採用試験をめざして頑張っている親友らを応援しているといいます。また、指導教員だった榎木泰介講師については、「卒論の制作時に親身になって指導していただき、物事をしっかり考えることの大切さを教えてくれました。わたしを導いてくれた恩人です。現在も、仕事で悩んだら、柏原キャンパスの先生を訪ね、相談に乗ってもらっています」

また、キャリア支援センターの川瀬英作キャリア・アドバイザー(企業就職相談・指導)にも、「就活のときには大変お世話になりました。面接でのスピーチの仕方を実践的に学ばせてい

ただきました」と感謝します。

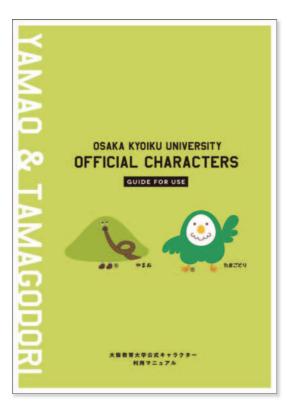
プライベートでは、なるべく仕事のことは考えずオンとオフを切り替えるように心がけているといいます。健康法では、ヨガのほか、最近はジョギングからマラソンに。11月の淀川ハーフマラソンに参加予定だとか。「走り終えた時の爽快感がたまらなくいいです」

「広報の仕事には、何もないところから、何かを作りあげていく面白さがあります。これからも社員に愛される社内報を制作していきたいです!



工事現場で取材

利用マニュアルのパンフレットを作成





この夏デビューした公式キャラクター [やまお] 「たまごどり」が、ブレークしそうです。

大学関係者の皆さまに、キャラクターを活用し、愛し育て ていただくため、キャラクター画像を印刷物やグッズに使用 するためのマニュアルを策定しました。近く、皆さまにパンフ レットを配布する予定です。マニュアルに沿って活用してくだ さいますようお願いします。

ここで、その概略を解説いたします。

マニュアルには、誕生した経緯、コンセプト、ポーズバリエーション、申請手続きなどが記載されています。

本学のキャラクター誕生は、通常とはひと味違いました。 ひと言でいいますと、学生の手によって学生の中から生み出 されたのです。

具体的には、平成24年度学生チャレンジプロジェクト『大教キャラクター策定プロジェクト』の学生によって進められ、学内公募によって集まった69体から選ばれた2体が最終案として残りましたが、大学側の判断で2体とも公式キャラクターとすることに決まりました。公式キャラクターが2体というのも、ユニークな点だと思います。

「やまお」のモチーフは「山」、「たまごどり」は「卵」です。マニュアルをご一読いただき、制作者の思いを受け止めていただければ幸いです。

また、ポーズバリエーションが多彩なのも特徴です。基本 ポーズから後ろ姿、喜びや哀しみといった感情表現など、 様々なパターンが用意されています。 キャラクターの使用を希望される方は「使用申請書」に必要事項を記入して、総務広報係へ提出してください。申請書はマニュアルの最終ページをコピーするか、webサイトからダウンロードしてください。ご要望、お問い合わせは、電話またはメールで総務広報係へお願いします。

〒582-8582大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1 国立大学法人 大阪教育大学総務企画課総務広報係 TEL:072-978-3344

mail:kouhou@bur.osaka-kyouiku.ac.jp

大学生協では公式キャラクターグッズが販売されています。是非、ご利用ください。



附属学校園ウォッチ大阪教育大学附属池田中学校

新聞を活用し、 思考力と表現力を育成する社会科教育

附属池田中学校社会科では平成21年度から、毎朝10分間程度の「新聞タイム」を設け、その日の朝刊からピックアップされた約20本の記事がB4版表裏にぎっしり印刷されている「NIE*プリント」の読み込みを行っています。

これまでに、「中学生が小学生に世の中を解説しよう!」や、中学生同士による「選挙の課題と争点を徹底議論しよう!」「模擬裁判員裁判を報道しよう!」「中学生が大学生(教育実習生)に世の中を解説しよう!」など、主に新聞各紙を情報源に仲間と議論を重ね、思考したことを"まとめて表現する"活動を積極的に実践してきました。NIEの取り組みに対して生徒からは、「世の中に対する興味が驚くほど広がった」「考えたことが議論で再構築されていく過程が実感できる」などの感想が、また保護者からは、「子どもとの会話が急に高度になって、頼もしく感じる」「親がNIEプリントを必死に読んでます」といった感想も寄せられています。

※NIE:新聞を教材とした教育

(社会科教諭 飯島知明)



大学生(教育実習生)に「東京五輪招致」について解説する中学1年生

本読みのススメ 第6話 駅

本学の公式キャラクターが決まりました。「やまお」と「たまごどり」です。いずれも本学学生の作品で、ロゴマークや自然環境などをモチーフにいわゆる「ゆるキャラ」として描かれており、本学の印刷物の表紙を飾ったりオープンキャンパス等でも活躍しています。

特に「やまお」は天王寺と柏原の両キャンパスを繋ぐJR環状線と近 鉄大阪線を連想させます。その近鉄線「大阪教育大前」駅は1日乗降 人員約6千人と、数字上も殆ど本学関係者のみが利用する駅です。た いへん有難いことですが、センター試験や本学の2次試験日には一部 の急行を臨時停車していただくなど便宜を図ってもらっています。

さて、今回のテーマは「駅」。ならば当然西村京太郎の「トラベルミステリー」または松本清張の「点と線」とも思いましたが、近鉄線は数分程度の遅れはあまり意に介さず、電車が少し遅れてでも乗客が皆乗り終えるまで待ってくれる地域密着型の交通機関であるため、この線を使って時間トリックを展開するのは難しいのでは・・・ということで、ややこじつけ気味ではありますが、前述の「やまお」のトンネルからイメージ(国境のトンネルを抜けるとそこは大阪教育大学だった?)される、大阪府出身川端康成の「雪国」を紹介することとします。

氏の作品はいずれも難解ではありますが、氏のノーベル文学賞の推薦文を書いたことで知られる三島由紀夫の言を借りれば、この作品は「人間と自然とが継ぎ目なく入りまじる静かな奇蹟の瞬間」が描かれており、その巧みな情景・心理描写に唸らされます。その他、著名女優により映像化された「伊豆の踊子」はもちろんのこと、まるで京都の観光ガイドとしても使えそうな「古都」、戦争を引き摺った家庭の平凡な日常とそこに潜む陰を描きだした「山の音」などもお薦めです。

また、駅や電車をテーマに描かれた作品では浅田次郎の「鉄道員 (ぽっぽや)」、三浦綾子の「塩狩峠」、有川浩の「阪急電車」、北村薫 「紙魚家崩壊」中の短編「俺の席」なども味のある作品です。紙面の都 合で内容を紹介できないのがとても残念です。(事務局長:若井祐次)

~<**~**<**~**<**~**<**~**<**~**<**~**<**~**

●本号でよかった記事を下から選んでください。 (3つまで。その他は具体的にお書きください。)

][

天遊vol.27アンケート

く (その供)

①センター紹介

②手をつないで

③ラボ訪問 ⑤卒業生CATCH! ④STUDENTS NOW! ⑥公式キャラクターコーナー

⑦附属学校園ウォッチ

][

⑧本読みのススメ

9TOPICS

●取り上げてほしい記事がありましたらお書きください。

●本誌をどこで手にされましたか。

●本誌をお読みになってのご意見・ご感想などをお聞かせください。

●次号以降、毎号『天遊』の送付を希望される方は記載をお願いします。 (一度、送付希望ハガキをいただきました方は、再度お申し込みは不要です。)

どちらかに⊻をしてください

□次号以降、毎号『天遊』を送付希望します。 □今後『天游』の送付を停止します。

ご住所 〒

お名前

お電話番号

※お預かりした個人情報は広報誌「天遊」の送付以外には使用致しません。

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY'S TOPICS

関大・近大との共同記者会見



「連合教職大学院の設置」にむけ

王寺キャンパス西館ホールで実施しました。 大学院設置に関する記者会見」を8月6日(火)、天 - 関西大学、近畿大学との三大学による連合教職

加わり、国私立の垣根を超えた大学間連携による 設置」に関西大学(本部:大阪府吹田市)が新たに 部:大阪府東大阪市)が進める「連合教職大学院の 教職大学院の設置をめざします。 平成27年4月設置予定の本学と近畿大学(木

りました。 ることで、学生の進路を後押ししていきたい」と語 町村教育委員会との話し合いを進め、協力体制を 教職大学院をとおして、大阪府・市教委、府内の市 ました。楠見学長は「教職に対する学生のニーズが 出した先見性のある教職大学院の取り組みに加わ 志望する学生が増えており、大阪教育大学が打ち つくり出していきたい]と表明。塩﨑学長は「教職を 高く、教職大学院にかねてより注目していた。連合 楠見晴重学長、近畿大学の塩﨑均学長が出席し 記者会見には、本学の長尾彰夫学長と、関西大学

長尾学長は「教員養成大学である本学と、大阪の

学生支援のあり方について 意見を交換

していきたい」と意欲を語りました。

ルを示し、全国でも注目される教職大学院をめざ タッグを組むことで、教員養成の高度化の独自モデ 有力総合私立大学である関西大学と近畿大学が

参加しました。 日実施され、学生支援実施委員会の教員ら47 会教育センター 学生生活研究セミナー」が、奈良県葛城市内の 充実と促進を図ることを目的にした「平成25年度 学生支援のあり方を研究・討論し、支援方策 かつらぎ」において9月3・4の両

めるか」をテーマに長尾彰夫学長が講演し、続いて はじめに「学生のリスク・マネジメント力をどう高

家を活用した遠隔地実習について」の報告がありま 教職教育研究センターの馬野範雄教授による「山の した。このあと、平成2年度学生生活実態調査の中

間報告が行われ、率直な意見

が交わされました。

Ż

〈キリトリ〉

- <+U+U> **>**

郵便はがき

2 8 0

(受取人)

大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大阪教育大学管理部 総務企画課 行

5月31日まで 切手不要

差出有効期間

平成26年

料金受取人払郵便

柏原局 承 認

իլիվելիլնելիկիսիսիցնդնդնդնդնդնդնդնդնդնդնդնդն

※該当する番号を○で囲んでください

あなたのご所属を教えてください

①本学学生

②本学卒業生

③本学保護者

④本学教職員

⑤附属学校生

⑥附属学校保護者

⑦附属学校卒業生 10教育委員会関係者 ⑧附属学校教職員 ①他大学教職員

9名誉教授 ⑩他大学学生

(3)その他(

公式facebookページを開設しました。

ースや公式ウェブサイトに掲載している情報を中心に、本 学を身近に感じてもらえる記事、写真や動画などを配信していま す。是非、「いいね」をクリックしてください。

https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv

本誌にご意見をお寄せください。

今後の誌面づくりに皆様のご意見を積極的に 取り入れていきたいと考えています。ご感想やご 意見、大阪教育大学についてお知りになりたいこ となどを、はがきまたはwebアンケートでお聞か せください。



「夭遊」とは

「天遊」は、荘子の言葉から引用された もので、人間の心の中に自然に備わってい る余裕をあらわしています。キャンパス統 合移転の記念に旧師範学校以来の同窓 会3団体から寄贈された記念碑に銘文とし て刻まれています。記念碑の揮毫は、水嶋 昌(山耀)本学名誉教授によるものです。



本誌はユニバーサルデザインフォントを使用し、再生紙に印刷しています。 この印刷物は、12,000部を714,000円で、すなわち1部59.5円で作成しました。